

令和5年度 弥彦村立弥彦小学校 学校運営方針

1、はじめに

当校の現状を分析した上で、当校の教育資源を集中し、ターゲット目標を定めていく必要がある。そのために、令和5年度は、「多様性（ダイバーシティ）の尊重」をキーワードとしたい。

学校は、子どもたちにとって一番身近な「社会」である。これからの時代を生きる子どもたちは、多様な価値、異文化、人種、性別、障害の有無等の違いを認識し、話し合いを通じて、二項対立の議論から答えを導き出さなければならない。これまでの日本教育が行ってきた「正解主義」では、決して育つことのない。そのためには、「お互いの違いを認め合う」、言い換えれば「相手の立場に立つ能力」を育てるところからスタートする必要がある。この考えは、インクルーシブ教育にもつながるものである。

子どもたちにとって学校は社会そのものである。学校において「多様性の尊重」をキーワードに、教育活動を行うことが、誰もが希望を持って日々自分らしく生きられる、誰もが自分の目標に向けて挑戦できる、誰もが能力を発揮し、参画・活躍できる社会を作る人作りの基盤となると考える。しかし、気を付けなければならないのは、「何をやっても個性であり許される」、「やらないことも個性であり尊重される」といった、多様性を都合良く解釈することを肯定しているわけではない。子供たちには、駄目なことは駄目と伝え、社会で生きる上で必要な規範意識を高めていく。

*多様性について職員間の認識の差を埋める話し合いの場が必要であろう。

2、目指す学校像と児童像について

①教育目標・・・3校の合併時の建学の精神。今も色あせていない。これは、我々のビジョン。

「心身ともに健康で、主体的・創造的に生きる児童の育成」

②目指す学校像・・・今年度のミッションであり、教師の立場からの表現

「みんなで創るカラフルな学校」

*colorful=色彩豊かなさま、多彩な

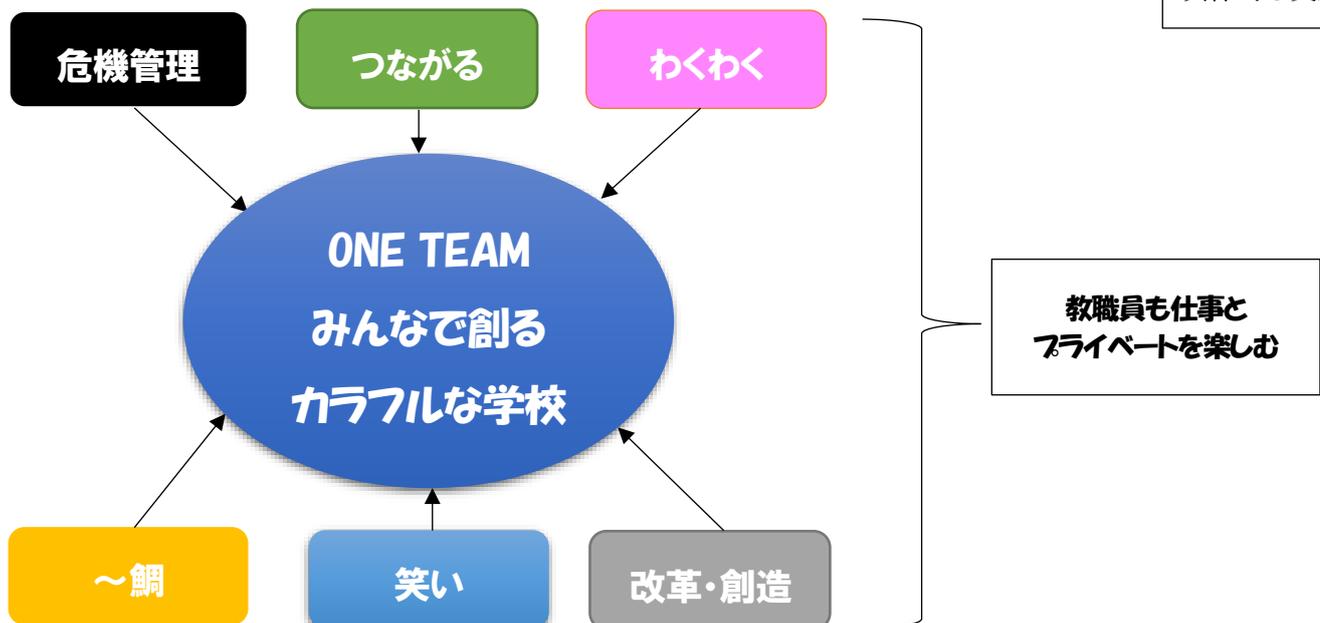
*カラフル=子ども一人一人の多様性の尊重の意味と定義

③目指す子ども像・・・今年度のミッションであり、児童の立場から

「お互いの違いを認め合い、尊重する子ども」



3、経営上のキーワード



4、昨年度からの学校運営上の大きな変更点

○専科教員制を導入し、学年で子供を見る。

○教職経験年数によるオアシス&OJTを分掌に位置付ける。

○登下校時刻の変更。8:10～職員勤務開始

8:15～始業時刻。8:10～8:20は、全校朝読書。